

<p>Q 自己フィードバックをしてみましょう。相互添削や、ルーブリックの結果を踏まえて、あなたの小論文はどうでしたか？ また、小論文を書くまでの作業の取り組みはどうでしたか？</p>
<p>・小論文を書くまでの作業の取り組み</p> <p>情報収集の時に、コロナ関連で何のテーマについて書くか迷ってしまい、時間がかかってとても苦戦しました。常に医療の現場では困難がありますが、コロナが深刻化してきてさらに逼迫している現状を目の当たりにした時に、様々な問題があることが分かったので、医療・福祉のことにしました。また、医療側だけではなく、障害を持っている医療的ケア児とその家族、医療サポートの社会的孤立が強まっていることを知ったので調べることにしました。</p> <p>・相互添削</p> <p>全体的に、一つの文章が長くてまとまっていなと感じました。2回同じ言葉を続けているため、言い回しに気をつけて書くべきだと思いました。</p> <p>ルーブリックの結果</p> <p>論理的な表現法を使えていなかったり、漢字で書かなくてはいけなのにひらがなで書いてしまったりしたので、丁寧にやりたいと思いました。</p>
<p>私は、誤字や抜け字が多かったのもっと良く確認する事が大切だと思いました。そして、段落分けをもう少し多したら読みやすかったのかなと思います。根拠のところで、2つぐらいに段落を分ければもっと読みやすかったと思います。ですが、自分の意見は一貫性があり反芻もできていたのでよかったなと思いました。小論文を書くまでの作業の中で、信頼できるサイトを見分ける事がしっかりとできていたのではないかなと思います。テーマを決めるのに少し時間がかかった面があったので、もっと物事に関心を持って調べてみたりする事が大切だなと思いました。知っているつもりでも、何をテーマにしたらいいかかわらないものに立ち向かう事になると思うのもっと社会の動きに注目してみたらもっとやりやすくなるなと思いました。</p>
<p>テーマを決めて情報集めをするなどの下準備をして書く小論文は初めてでした。新聞ノートや現代社会で自分の意見を書く機会がありますが、今回の小論文では、根拠の提示とそれに対する自分の考えを制限文字数以内で表現することに1番苦戦しました。普段から文章を書く機会が多いのにまだまだ練習不足だと痛感しました。しかし改めて読み返すと初めてながら自分でよく書けていると思いました。また、今回の小論文だけでなく、今までの自己PRや志望理由書等の文字数制限がある文章を書く際に文字数をオーバーしてしまうことがあるので、自分の文章を要約すること、言い回しを変えて文字数を抑えることがこれからの課題だと思いました。相互添削では自分では意味のわかる単語が相手に伝わらなかったり、自分では良いと思っていた接続語にチェックが入っていたりと読む人によって文章の捉え方、読み方、癖が違うのだなと思われました。誰が読んでも伝わるわかりやすい文章が書けるようにこれから練習を重ねて行きたいと強く感じました。</p>
<p>今回の授業で相互添削をしてみて気づいたことは添削の大切さです。班の中で交換して読み合う中で他の子との表現の違いを感じることができたのと同時に自分では正解だと思っていた表現も他の子にとっては間違っていた表現だったり気づきが多かったです。</p> <p>今回のテーマはコロナという私たちが一番身近に感じているテーマだからこそ難しいものでありましたが、これから小論文をやるにあたって今回の授業を生かしてやっていきたいです。</p>
<p>相互添削をして「この文を切った方が良い」とコメントを残してくれて、確かに一文が70字以上になっていた部分があり、読み返してみるとズラズラと書きすぎていて内容が入ってこないと感じ、訂正しました。また、あるデータを引用してきていたのですがそれは現状報告のみで、「こうなる前の情報があれば比較でき、より伝わりやすい」と書いてくれて、元々はこうだったというのが分からない文となっていたので、自分では気づくことの出来ない観点からアドバイスをくれた友達の意見は、とても参考になりました。気になった部分はこのくらいで、ルーブリックを見ても根拠を元に自分の意見を述べられており、文字数や段落分け、誤字脱字も問題なく書けているかなと思います。</p> <p>また小論文をコロナというテーマで書くとき聞いた時、最初は書けるかなという心配ももちろんありましたが、すぐに目指している学科の経済と関連付けさせて書きたいと確信し、イメージがどんどん湧いてきました。情報センターにある何冊もの本に目を通し、インターネットを用いてコロナから経済に関してを検索して、初回の授業から沢山情報を集めました。その結果着地したのが「Go Toキャンペーン」でした。良い小論文が書けたと思います。</p>
<p>相互添削をしてもらうと、自分では気づいていなかったような間違いに気がされました。逆に、自分で友人のを添削していると、こういう表現や言い回しはあまり良くないのかと思ったり、ここはこういう風に直すと良くなるのかと自分の文章に活用できそうな改善点を多く見つける事ができました。小論文を書くまでまず問いが見つからずとても大変で、見つけても、文章にうまく合わなかったり、微調整がとても大変でした。情報も、自分の知りたい事が中々見つからず、探し方も工夫しなければいけなかったので大変でしたが、大学に行った時、情報の見つけ方などに活用できそうだと思いました。</p>
<p>下書きの段階で割と字数が多くなってしまったのでたくさん削ったが、本番は大きめに段落分けをしてからそれぞれの伝えたいことと字数を計画しながらスムーズに書けるようにしたい。また、自分の下書きを改めて原稿用紙に書くとしたときに同じ言葉を繰り返し使っていて、違う言葉で代用するとごちゃごちゃしてしまうため指示語を使うことになった。今まで話し言葉でしか使っていなかったが、何度も同じ言葉を使ってくらい文章になるよりも最善の解決策を見つけれられたので良かった。しかし、誤字と重複してしまった箇所があったので見直すことが大事だと感じた。</p> <p>私は自分の問いに対して反対だったが、情報共有の際に班員それぞれの賛成反対意見を聞き、確かになと賛成意見にも納得できる部分があった。ネットに上がっている資料は大人が書いているものが多いが、自分と同じ年代の人の視点も大事だなと思った。それらを参考にして自分と反対の意見につなげて書くことができた。</p> <p>時間をかけて完成させた小論文だったのに誤字などがあったことでルーブリックの表記面3点を逃してしまった。本番はもっと時間や情報が限られた中で行うので、ルーブリックで全てレベル3に当てはまるものを書き上げることを目標としていきたい。根拠のための資料を探しているときに、身近なニュースなのに詳しいことはわからないものが多かった。本番は参考文献などを見れないので、幅広い分野の時事問題や自分が興味のある資料を普段から見癖をつけて、頭に入れておくべきだと思った。</p>
<p>今回小論文のテーマとして選んだ問題は、小学生の頃から関心を強く持っていた問題だったので短く(800字)でまとめることがかなり大変でした。その一方で、関心のあるテーマだったからなのか準備する過程は「どう伝えたら関心を持ってくれるか」を考えたりとすごく充実していたと思います。伝えたい事と事実と根拠を上手くまとめていくことは上手く出来たと考えていました。しかし、相互添削で客観的に見ると事実と根拠を自分が理解している部分を省略してしまっただけで、読み手に伝わりにくかったかもしれないと気付きました。また、反論を文章にどの位置に持ってくるかによって文章の雰囲気が変わってくるのだなと班のメンバーの小論文を見ていて感じました。私は、根拠を述べた後に書きましたが、文の最初の方に反論を持ってきた小論文は問題と問題に対する意識の違いが読み手にクリアに伝わってきたように感じました。そして、具体例を分かりやすく例示してくれると小論文がとても読みやすくなるのだなと改めて感じました。一人で書いた小論文よりも、班のメンバーからの添削を受けてから考える小論文は今までもより豊かにより良く書けるのではないかなと思います。自分にとってすごく気付きの多い学習になったなと思います。</p>